

平成 25 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 25 年 10 月 2 日

学 長 殿

所属部局・職名 経済経営学類 教授

申 請 者 名 清水修二

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・ <u>学会等</u>) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事 業 名	日本科学者会議原子力発電問題全国シンポジウム
事業実施期間	平成 25 年 8 月 24 日～ 平成 25 年 8 月 25 日
成 果 の 概 要	<p>原発事故被災地の福島大学で 8 月 24・25 両日開かれた原発シンポのテーマは「福島原発事故・災害－2 年半後の現実と打開の展望」である。福島事故の中間総括的な議論をしてみたいというのが現地主催者の気持だった。事故現場での放射能汚染水漏れが大問題になっているさなかということもあり、148 名の参加を得て活発な議論が行われた。</p> <p>初日のシンポジウム「福島原発事故の評価をめぐって」では、とくに汚染水の件に関して地下水問題にくわしい本島勲氏の報告が注目され、議論の中でも、問題処理について科学者の英知を総結集する必要性、および日本科学者会議としても取組体制の構築が求められることが指摘された。また放射線の健康影響に関して、県民健康管理調査の内容とあり方が議論になり、批判するばかりでなく調査の信頼性を高めることが県民にとっては重要であるとの意見が出された。チェルノブイリ事故被災地の調査報告(清水)もあり、福島事故との差異と教訓を多角的に見ることの重要性が強調された。</p> <p>2 日目は「除染と廃棄物処分をめぐって」および「脱原発への道」の 2 つの分科会が並行して行われた。除染は目下、喫緊の課題になっているが、政府のガイドラインの問題性をふまえた効果的な除染方法の提案、また除染によって生じる膨大な廃棄物の保管方法についての報告がなされた。とりわけ除染廃棄物の「仮置き場」に関する行政サイドからのリアルな現状報告(半沢隆宏氏)が注目された。また高レベル放射性廃棄物の処分問題では学術会議の提言に関する当事者(船橋晴俊氏)からの丁寧な解説が行われた。「脱原発」分科会では、再稼働をめぐる技術的な論点(新基準の問題点)、再生可能エネルギー(地域的視点からの課題)、および地球温暖化と原発の問題に関し、論点と課題が分かりやすく提示された。</p> <p>2 日目の午後には食品の放射線検査(農協)、ホールボデ</p>

イ・カウンター（県労働保健センター）、そして仮置き場（伊達市）を実見する現地視察があった。伊達市は市内の実に80カ所に仮置き場を作っている。視察には定員を超える希望者があり、「話には聞いていたが実際にこの目で見るとやはり迫ってくるものがある」との声が聞かれた。

参加者のアンケートを見ても、今回のシンポジウムは充実したものであった。現下の深刻な事態をどう打開するか、福島県民の立場や現状をリアルに踏まえた議論と対策の提言が重要であることを、あらためて認識される機会になった。福島で開催したことの特別な意味が十分にあったといっていだらう。原子力災害はまさに現在進行中で、世界でも前例のない深刻な事態が続いていることを、全国の科学者、識者には知ってほしい。

原子力発電問題全国シンポジウム in 福島

「福島原発事故・災害 — 2年半後の現実と打開の展望」

- 共 催 日本科学者会議原子力問題研究委員会 / 日本科学者会議福島支部
- 後 援 福島大学
- 日 程 平成 25 年 8 月 24 日 **土** ~ 25 日 **日**
 - 24 日 13 時 00 分 ~ 17 時 00 分 全体会
 - 17 時 30 分 ~ 交流会
 - 25 日 9 時 00 分 ~ 12 時 00 分 分科会
 - 午後視察（食料品検査場、除染廃棄物仮置き場、ホールボディ・カウンター等）
- 会 場 福島大学 L 教室

8 月 24 日 **土**

1. シンポジウム

「福島原発事故の評価をめぐって」

- (1) 事故原因はどこまで解明されたか
館野 淳（元中央大学・元日本原子力研究所）
- (2) チェルノブイリと福島
清水 修二（福島大学）
- (3) 放射線被曝について何が明らかになったか
野口 邦和（日本大学）
- (4) 事故現場はこれからどうなるのか
— 廃炉への当面の課題
本島 勲（元電力中央研究所）

交流会（福島大学にて）

8 月 25 日 **日**

2. 第1分科会「除染と廃棄物処分をめぐって」

- (1) 除染の技術と効果 — 地域循環型除染の提案
山田 國廣（京都精華大学）
- (2) 地域の除染および除染廃棄物処分の課題
半沢 隆宏（伊達市市民生活部理事・放射能対策政策監）
- (3) 高レベル放射性廃棄物処分場問題
— 学術会議の「回答」をめぐって
船橋 晴俊（法政大学）

3. 第2分科会「脱原発への道」

- (1) 再稼働を巡る技術的論点
— 原子力規制委員会と新規制基準
青柳 長紀（元日本原子力研究所）
- (2) 再生可能エネルギーの実現見通し
— 地域的観点からの方法論
佐川 清隆（東京大学大学院）
- (3) 地球温暖化と原子力発電の問題を振り返って
林 弘文（元静岡大学）

- 参加費 1,000 円（資料=予稿集代）
- 問合せ先 清水 修二（福島大学経済経営学類）

Tel&Fax : 024-548-8378

E-mail : e043@ipc.fukushima-u.ac.jp

